

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	10 月	18 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	ヒダリマキガヤ群落				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1957年(昭和32) 6月13日				
所在地	宇陀郡曾爾村葛				
所有者 管理者	個人				
員数					
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) ヒダリマキガヤ			(樹齢)	
案内板の状況	有り				
公開	個人の所有地なので事前に了解を得る必要がある				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 (持ち主がヒダリマキガヤ群落までの山道については草刈りを行っている)				
当面の課題	このヒダリマキガヤ群落は杉林に埋もれ光も当たらない状態だったが、5年前に県の文化財課の整備事業でヒダリマキガヤ群落を守るために杉林を伐採し、現在は光も当たり風通しもよくなっている(曾爾村教育委員会談)。地主の理解もあり下草は刈り取られている。				
今後の課題	現状維持が行われ、台風などの災害により樹木自体や枝などが折れないことを祈る。今年(2020年)はカヤの実の付け具合が少ないようだ(地主談)。				
その他 (由緒など)	樹齢は地主もよくわからない。曾爾村教育委員会の説明には記載はされていない。「カヤの樹木は12本が確認され、ヒダリマキガヤは、一変種で核殻の螺旋状(らせんじょう)条線が左巻のものと右巻のものがあり、左巻の数が右巻の数より多いのでヒダリマキガヤと呼んでいる。(曾爾村教育委員会説明板より)」。地方ではカヤの実は油をとる原料として、種子は食物や薬にも利用されていたようである。				
コメント	高野山ではカヤの実の油は灯り・冬でも凍らないので燈明などに使われるようである。自身も小さい時は親戚にカヤの巨木がありカヤの実をもらって食べた記憶がある。同村出身者としての村の中でヒダリマキガヤ群落があるのを初めて知った。普通のカヤの実に比べて少し細長く、左巻カヤはよく観察しないと殻の螺旋状条線はわからない。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	10月	18日	記入者	橋詰輝己
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	ヒダリマキガヤ群落
------	-----------

ヒダリマキガヤ群落の案内板	200メートルの山道を進むが下草は刈り取られていた。
---------------	----------------------------



ヒダリマキガヤの説明板



ヒダリマキガヤ群落(12本確認)



カヤの実(左から実・果肉・種子)と左巻カヤの実



カヤの実採取禁止板(地主より)

